THE LION'S ROAR

ISS INTERNATIONAL SCHOOL SINGAPORE CAMPUS

潜在力の実現

NOV 2018

www.iss.edu.sg

二コラ・ズールー
高校部校長

e-ニュースレターにようこそ！多忙で成功的な四半期が終わろうとしています。教室内外で行われたさまざまな活動を通じて、ISSコミュニティの豊かで色とりどりの文化を共に祝える機会を生徒たちに提供する様子を見てきました。生徒たちは、自分が生きている世界を批判的に評価して、積極的にこれに参加して再創造し、肯定的に影響を与える方法を養っていくため、本校はIB 学校として「グローバル市民マインド」を探求して、幅広い視野をもつように励まします。

地球規模の問題に生徒たちが関与していくようにするためにさまざまな機会が提供されます。: 韓国の済州で「人間の条件(The Human Condition)」そしてソーシャルメディアと技術が生徒たちに影響を与えるかに焦点を合わせたワールドリーディング・スクール協会学生カンファレンス(World Leading Schools Association Student Conference)が行われました。ここでISSの5人の高校生と世界各地から来た学生が集まり地球規模の問題に関する討論を行いました。; ISSの年例6-11学年の障壁のない週間旅行(そしてe-ニュースレターのページをめくる度に、この旅行が生徒たちに与えた影響を一目で見ることができます。); ISSの小学部の生徒たちが参加してe-廃棄物と生ごみをテーマに行われた環境認識スピーチ大会(Scholastic Environment Fund Oral Competition); 最後に、8月-9月に全校生がグローバル市民として参加するe-廃棄物認識キャンペーンを学校をあげて行っています。

本校のカリキュラムはすべての教育分野に「グローバル市民マインド」を内包しており、生徒が科学・人文学・言語・文学・芸術・スポーツ分野の勉強する上でグローバル市民としての成長と地域社会、さらには世界と自分を関連づけさせるようにしています。その結果、生徒は成功的な学習者、自信にあふれ、責任感がある市民、効果的な貢献者になる方法を学びます。これは、IBを学習する生徒のプロフィールで強調している点で、学校の朝礼の時間に1年を通じて奨励しています。また、高校部の生徒たちは世界各地の大学に進学するために準備しています。本校は、大学進学情報の夜、ISSが毎年開催する日本大学情報博覧会、そして毎週大学訪問を通じてサポートしています。.

e-ニュースレターのページをめくりながら、生徒たちが「グローバル市民」になるために奮闘する様子や活動の内容を直接見てお楽しみください。

二コラ・ズールー(Ms. Nicola Zulu),
高校部校長

CONTENT

02 ISSについて見る:
学校は学校の心理カウンセリングがどのように生徒に未来型の学生として育てるのか?

05 学生たちの成就と貢献:
レイクサイド・ファミリーセンター(Lakeside Family Centre)
高校部のための進学情報の夜
PTAの年例総会
波を作る
12年生の電子 - 廃棄物の点数(もう一度)!
障壁のない週間に対する生徒たちの感想文
ホイ・アン(Hoi An)
セディリ・ベサル(Sedili Besar)
ティオマン(Tioman)

11 本校の卒業生:
マキ・シオダ (Maki Shioda)

12 主な行事:
「なぜ私が?なぜハーバードに?なぜ今年の夏なのか?」
WLSA 学生カンファレンス
動いているグローバル市民マイン
緊密に結ばれたコミュニティのチームワークを強く誇示
2018日本大学情報博覧会

16 今後の行事:
今後のイベント
11月 – 12月

リラックスしたクラスの環境は、生徒たちが気楽に自分の感情を話せるようにしてくれます。

学校は学校の心理カウンセリングがどのように生徒に未来型の学生として育てるのか？

「昔のことわざにもあるように、「子どもを育てるには、村中のサポートが必要だ」また、ISSでは、最も理想的で効果的な結果を達成するためには、生徒たちのために選んだ目標を強化させるISSのコア戦略に従って、研究チームと心理カウンセリングチームが緊密に協力し合っています。」
ベルナ・セコン(Ms. Berna Sekhon)、ISS カウンセラー

a) 各生徒たちのための差別化したアプローチを開発するために、ISSの中心的な価値に基づき、研究チームと学習サポートチームが力を合わせています。

「ISSの全研究チームと同様に、学習サポートチームも生徒をグローバル人材として準備させるため、配慮と自律かつ包容的であれというISSの中心的な哲学に基づいています。生徒たちが能力を最大限発揮できるようサポートするため、生徒の安定と幸せを保障するために努力しています。これがまさに、問題が発見されるときに私たちが1つのチームとして対応できるようにするために、研究チームと心理カウンセリングの職員が緊密に協力する理由です。生徒が教師と普段から親密な関係を築くことにより、様々な問題を見つけやすくなります。直面した問題の原因を把握するために、問題によっては生徒と1対1セッション以外でも学校のカウンセリングチームまたは学習サポートチームが教室で観察します。場合によっては、父兄と相談することもあります。父兄が子どもも学業や問題、そして追加的なフィードバックを与えれば、生徒を理解する上で役立ち、さらには生徒が可能性を最大限引き出すことができるように、計画を練って研究チームと心理カウンセリングチームが協力します。結論に到達するとき、生徒が問題に対処できるように、サポート担当職員 – カウンセラー、学習サポートチーム、大学カウンセリング職員、保護者およびボーディング(boarding)担当者、または医療職員 – そして、私が生徒の担当教師および校長と協力して差別化した学習とサポートの計画を作成します。　幼稚園から12学年までの学習サポートと福祉主任のパトリシア・ウィンペニー(Ms. Patricia Winpenny)は、「文字通り『全員サポートしなければなりません』(all hands on deck)」シナリオなのです。私と私のチームメンバーは、生徒の向上度を続けて確認するために、全学年にわたって毎週職員会議を開きます。この会議は、教師個人個人がよく動いているか、必要な場合は措置を改善する部分はどのように改善するべきか理解できるようにアドバイスをします。これこそISSの誇りです。私たちは、生徒やその家族と密接な関係を持つように常に努力します。どうすれば生徒が意欲が湧くのか、そして何がそれを妨害するのかを把握するために、時間と努力

> ISSの全研究チームと同様に、学習サポートチームも生徒をグローバル人材として準備させるため、配慮と自律かつ包容的であれというISSの中心的な哲学に基づいています。

を惜しみません。このような生徒に対する徹底した理解は、研究や心理カウンセリングをサポートする第一線で、生徒の幸せと最適化する個人的で差別化した戦略を開発します。このようなシステムは、非常に効果をあげ、努力の結実を見せてくれるケースだといえます。生徒の中には問題を抱えている状態で登録しましたが、共感と適切な対処を通じて優秀なIBの点数を取り、世界有数の名門大学に進学しました。」

「小学部と中学部におけるスクールカウンセラーの役割は、全生徒が学校内の個人的/社会的/学問的なニーズを把握することです。私の役割は、すべての分野で生徒の成績を高め、生徒の安定と幸福を促進する総合的な学校カウンセリングプログラムの実施が要求されます。また、私の業務は、生徒たちの異なる成長段階に合わせて対処方法も異なります。ここには、必要性、課題、関心が含まれています。」とセクホン(Ms. Sekhon)はいいます。「通常、毎日予約でいっぱいです。必要に応じて20分から1時間ほど行います。一番多い問題は、集団、同僚、家族関係、葛藤の解決、そして時間の管理から発生するストレスと不安感です。生徒が話してくれた内容は秘密を守ります。私は、ISSの戦略的な価値と一致するカウンセラーとして、目標に向かって行動します。これは、生徒たちには各自に合わせた異なるアプローチが必要だと言う確固たる信念からきています。同時に、2人の生徒をカウンセリングすることはないので、生徒の情緒的な安定と幸福を最優先にする信頼できる専門家と一番内面の問題を共有して相談できる安全な環境を生徒たちに提供します。真実なサポートと指導を通じて、生徒たちは最大限の能力を発揮することができます。」

b) 安らかで快適な環境を作成します。

心理カウンセリングはISS学習サポートおよび福祉チームの義務にとどまりません。学校のすべての教師がこれを実践します。

1年の担当教師であるリー・ライト (Ms. Leah Wright)は、ISSで子どもたちのニーズを確認することが核心だと信じています。「私は、生徒たちが感情をそのまま表現できるリラックスできる教室の雰囲気を作りました。生徒が自分の感情について話すことで、生徒は自分がどんな感情をもち、その感情の背後にある理由を理解できるように導きます。他の生徒たちは耳を傾けて聞くので、みな共感してより連帯感が強くなり、問題解決能力が伸びます。」

リーは、2人の生徒の間で問題が起きたり、小規模のグループで発生する場合について話してくれました。 彼女は、通常このようにアプローチをします。「開放型の質問を投げかけ、各生徒やグループが問題について自分たちの観点を話す時間を与えます。他の生徒やグループは割り込まずに集中して聞くように促し、後で質問できるように機会を与えます。2人の生徒やグループがこのプロセスを終えたとき、互いに違っていたことに関して話して、公正な解決策を導き出そうとします。時間が経つにつれて、生徒は相手に対する認識が高まり、自分のこともより正確に分かるようになるため、サポートを受ける必要性が減ります。このような対話の時間を独自にもつようにしています。家庭で問題があり、親と対話できるようにサポートしてほしいと要請してくる生徒に同じ方法を適用しています。この方法を取り入れることにより、児童と父兄は相手に対してより理解しやすくなり、互いに解決策を導き出すことができます。」

これが、幼い生徒に効果的な場合があります。しかし、演劇やフランス語教師のブルーノ・アレン・レボン(Mr. Bruno Alen-LeBon)は、「私たちは生徒を見落としません。高学年の生徒たちは安らかに感じて話す準備ができるためには、自分がグループの重要な一員だと感じることを願います。」といいます。 10年主任、高校部のプロジェクト進行役、そして音楽教師のクリストファー・ホディノット(Mr. Christopher Hoddinott)また、これに意見を同じくし、高学年の生徒たちをサポートする上で最も重要なことは、「小さいことでも常に生徒が関心のあることに耳を傾けることです。大切なのは、生徒がリラックスでき、学校の環境に歓迎されていると感じることです。生徒が自分の話を聞いてくれ、悩みを聞いてくれるなど、苦しいときにいつでも話せる様々な道(例えば、心理カウンセラーだけでなく、学年主任や学校カ

生徒たちが安定と幸福 – 身体的、精神的、感情的、学業的 – は、本校の最優先の項目です。

父兄は、生徒をサポートするにあたり重要な役割をします。

心理カウンセリングの配慮チームと父兄の間の強力なコラボレーションは、生徒が自分のニーズを満たして、可能性を引き出して実現できるようにサポートするために必ず必要です。

教師たちも生徒が学校や家庭や生活の中で直面する問題について耳を傾け、解決に向かって生徒と歩調を合わせていくことが大切です。

するサポートを提供することを目標にする生徒のグループの同僚カウンセラーでもありました。

ウンセラー）があることを認知することが決定的な必須要件です。また、生徒の関心のある部分を通じて、問題を沈着に処理することも必須要件です。」

c) 生徒が自分の感情と向かい合えるようにサポートする上で、マインドフルネス活動(Mindfulness activities)は素晴らしい役割をします。

“「マインドフルネス活動は、生徒が自分の感情に同調して、生徒が無力感を感じる時に活用できる戦略を開発できるようにサポートするため、私は常にこのようなマインドフルネス活動を強調します。 マインドフル・カラーリング(mindful colouring)、瞑想、ヨガのような教室内のマインドフルネス活動をしたり、ウォーキングなどの様々な活動を使用します。」と話します。この活動は、全学年にわたって活用されており、生徒たちはこの活動から多くのものを得ました。

「マインドフルネス活動は、重要な時期である11学年と12学年に非常に大きく役立ちます。」と、2018年卒業クラスのマイリー・フロア(Mhairie Flor)は話します。「マインドフルネスは、自分が置かれた状況を認知するのにや下り、ストレスを受けたり精神の健康の大切さを忘れさせる代わりに、適切にその状況を分析できるようにします。合理的な意思決定を下し、責任のある措置をするのに貢献します。私は、IBの科目の1つに音楽を選択しました。試験科目で舞台に立って聴衆の前で公演しなければならず、この公演を採点されました。実際、公演の直前のリハーサルで極度に緊張しました。緊張したあまり、声がとても震えて歌をうまく歌えませんでした。リハーサルの後に学校のカウンセラーは私を横に連れていき、一緒にマインドフルネスを行いました。その日の夜、私は自分ができる最高の公演をすることができました。この活動を通じて、その後のすべてのミュージック公演に役立つストレスを減らす練習を信頼できるようになりました。」

d) 心理カウンセリングサポートはISSの家族まで拡大します。

個別化された学生サポート計画が学校と家庭で継続的かつバランスよく行われなければなりません。父兄の参加とサポートが重要な理由です。

「子どもの安定と幸せのためには親の役割が重要なため、生徒または父兄が毎日最も顕著に扱う問題について議論するため、隔月で「カウンセラーとの対話」をもっています。このようなセッションは、学校のカリキュラムと学校の文化に父兄をつなげる上で非常に為になることが立証されました。」とセクホン(Ms. Sekhon)がいいます。「このようなセッションに参加できて、とても嬉しく思います。このセッションを通じて、私は1人ではないと実感しました。同じ問題を子どもと共有する親が自分の他にも沢山いることが分かりました。これは、非常に素晴らしいアプローチです。」と ISS の父兄は話します。

また、本校のPTA (Parent Teacher Association)もISSで中心的な役割をします。 PTAは、父兄と教師に協同精神と共同体意識を育てる方法で、学校をサポートするために存在します。「ISSは、包容的で多様な生徒を登録させようと約束したため、私たちは1つの委員会として可能な限り多くの包容的な活動を通じて、父兄コミュニティをサポートするために努力します。強い共同体意識を育てるために、様々な企画を立てようとしました。定期的な月例以外にも、皆が期待している PTA 運動会、講師を招請した対談セッション、1つになる夜などの多くの行事を運営します。」と PTA 代表のサバンナ・ファロウズ(Savannah Fellows)は言います。

多くの科目別コーヒーの朝、IBカリキュラムを紹介するオリエンテーション時間、大学進学情報相談、 PYP, MYPおよび DPの夜は、父兄が研究チームに直接質疑して明確な情報を得て、子どもの学業の環境に対する理解を高める機会を提供するために、毎学期行っています。このような行事は、子どもがISSで学ぶ間、父兄が子どもをサポートし、生徒だけでなく父兄の安定と幸福を高める上で必要な理解を父兄に提供します。

生徒の安定と幸福 – 身体的、精神的、感情的、学業的 – このISSインターナショナルスクールにおける最優先事項です。私たちは、サポートするにあたり、総合的で可能性を引き出してあげながら、幸せで達成感を感じ、成功的な人生に向かって生徒が旅立てるようにサポートするために介入します。本校の生徒たちはこれを知っており、これだけでも生徒に重要な影響を与えます。

レイクサイド・ファミリーセンター (Lakeside Family Centre)

ホワイトヘッドがISSを代表して賞を受け取っています。

授賞式場の公演に先立ち、ダンスチームのECAがプレゼントをもらいました。

レイクサイドでボランティア活動をしている生徒

数年間レイクサイド・ファミリーサービス(Lakeside Family Services)に送った支援に対し、レイクサイドからスペシャルイベンド賞を受賞する栄光をつかみました。レイクサイドは、1993年に発足した非営利ボランティア活動の福祉機関で、人種や宗教を超えたコミュニティの必要性に焦点を置いて、質的サービスを提供することに専念しています。生徒たちは、2010年にレイクサイドでボランティア活動を始め、コミュニティの子どもたちに「教育を提供」するために自発的に自分の時間を投資しました。初めは7人でしたが、人数も数を追うごとに増えていっています。

今年は5年前に続いて2回目の受賞となり、レイクサイドをサポートする募金活動に貢献した功労を称えて、20周年記念晩餐会で賞をいただきました。

レイクサイドに感謝します。とても嬉しく、栄光に思うとともに、少し恥ずかしいです。学生ボランティアプロジェクトの責任教師であるホワイトヘッド(Mr. Whitehead)、授賞式場で公演を行ったダンス公演チーム、そして数年にわたってレイクサイドをサポートした生徒の皆さんにお祝い申し上げます。

高校部のための進学情報の夜

ISSを卒業する高校部の生徒たちが未来に向かって準備するのをサポートするために、大学進学に関する情報の夜が開かれました。情報の夜にISSの大学相談オフィスはサポートの手順、サポートの日程、国別の学費に関する情報を要約して提供しました。教務課もまた、サポートに必要な証明書の発行手順をお伝えしました。世界中(例えばアメリカ及び日本)の大学で学業を続けることについて生徒に教える各大学の担当者も招待されました。このような部分がISSが未来のために準備した生徒を養成するという事実を確実にします!

「大学進学における情報の夜は、本当にためになりました。アメリカの大学に進学することは考えたことはなかったんですが、ボストン大学のマッカーシー(Mr. McCarthy)から情報を聞いてからはアメリカの大学に興味が湧いてきました。相談後にマッカーシーに個人的に話す機会が与えられました。写真や映画について勉強してみたいと伝え、マッカーシーは映画とフォトジャーナリズム (photojournalism)をすべて含めるボストン大学のメディア及びコミュニケーション課程の入学の概要を説明してくれました。今は、アメリカでより多くのオプションについて調べています。 - セラフィノ(Seraphino)、ISS学生

世界中の多様な大学の関係者たちが、生徒と相談する時間をもつために学校を訪問しました。

このような行事が皆さんに有意義な夜となりますよう願っています!

PTAの年例総会

9月12日、ISS父兄および教師協議会(ISS Parents and Teachers Association (PTA))が年例総会(Annual General Meeting (AGM))を開き、新しいPTA委員会を選出しました。ISS PTA コミュニティからとても多くの方々が参加し、文化の分野を代表を含めて席が埋まりました。2018/9 PTA 委員会を紹介できることを嬉しく思います。:

会長: サバンナ・フェロウズ
(Savannah Fellows)

副会長: ポール・マッカビン
(Paul McCubbin)

書記: バネッサ・ セットー
(Vanessa Szeto)

事務総長: カルロス・マリ(Carlos Mari)

財政: エツコ・アソウ(Etsuko Aso)

財政補: ニール・ヤングクィスト
(Neal Youngquist)

疎通担当: アツシ・ワタナベ
(Atsushi Watanabe)

日本代表: リナ・モチズキ
(Rina Mochizuki)

中国代表: アニー・ウェンヤン
(Annie Wenyan)

韓国代表: チェ・ヒョンジュ
(Hyun Joo Choi)

小学部代表: マサコ・ユゲ
(Masako Yuge)

中学部代表: レイナ・イマムラ
(Reina Imamura)

高校部代表: クリフ・エン(Cliff Eng)

教師代表: マ・アイェ・リゴット
(Ma Aye Ligot)

一般委員: トシカズ・マサネ
(Toshikazu Masane)

一般委員: ディーパ・チャンドラセカラン
(Deepa Chandrasekaran)

PTA会長のお言葉 :

2年間続けてPTAの会長を務めることになり、恐縮するとともに、嬉しく思います。昨年の学習曲線は著しかったですが、PTAが今年1年を素晴らしいものにできる方法を私は知っています。

今年、PTAは、生徒、父兄、保護者、そして教師の間の強力なコミュニティを建設するために努力いたします。 PTAと父兄の間で様々な言語によるコミュニケーションを増進する計画で、日本代表だけでなく、韓国や中国のコミュニティを代表する委員を選出しました。中学部と高校部の生徒による行事をサポートし、PTAが学校生活を向上させる方法に対してフィードバックするために、生徒会と緊密に協力する計画です。 今年ある期間は生徒たちがストレスを受けるかもしれませんが、PTAは私たちが子どもの努力にどれほど感謝しているか子供たちに見せてあげたいです。

また、PTAは、より幅広いコミュニティと環境により配慮していく予定です。ISSの中心的な哲学である文化的な認識と包容性を駆り立てるインターナショナルデーをサポートすることになり、誇りに思います。惜しまずに与える木と祝祭(The Giving Tree and Fun Fair)は、様々なチャリティーイベントのための寄付を集める駆動力であり(そして、そのプロセスで祝祭の楽しさも!)、コミュニティ内で為に生きる強い精神がベースにあります。また、海辺の清掃(または2ヶ所の海岸)を行い、環境に対する配慮を学びます。ISSでは中心的な分野がもう一つあります。: UNの持続可能な開発目標をサポートするために具体的な措置を施すことです。

すべてのご父兄が来てフィードバックを与え、時間と余力を利用してボランティアできる方法を探し、今後の行事について知ることができるように総会を開く予定です。

人は皆変化を起こすことができますし、そのためには努力が必要です。

皆さんにご協力いただき感謝いたします。PTAが送るEmail(pta@iss.edu.sg)を確認するか、Facebookの「ISS International School PTA」グループにご登録ください。

サバンナ・ファロウズ(G2 と K1に通う娘の母)

PTAコミュニティは、すでにシンガポールで現地探訪を始めました。ボリーウッド・ベジズ(Bollywood Veggies)にあります。

PTAの年例総会にご出席いただき、ありがとうございます。

2018/9 PTA 委員会をご紹介しています。

波を作る

優秀チーム!オーチャードハウスの主将がアルバレズ博士(Dr. Alvarez)からISSの楯を受けとっています。

そして出発

水泳ガーラは、スポーツを通じて達成感を得て祝いの場を増やすことによって、学校というコミュニティが1つになる機会を与えます。また、生徒たちが水泳を学ぶことをを通じて努力の結果を立証できるように導きます。

これらの行事を通じて、生徒たちは自分の可能性を発見します。水泳を学ぶ中で肉体的な限界に挑戦し、努力を積み重ねるうちに逆境を乗り越えて肉体的・精神的に成長していきます。

結果とは関係なく仲間を励まし支えることができるのは、生徒たちが互いに尊敬して努力を認め合う ISSの基本理念をもとに生徒たちが成長している証拠といえます。ISSは配慮と包容的なコミュニティをサポートし、貢献していきます。

勝利したハウスのオーチャード(Orchard)にお祝いを申し上げます。

K1-G1の生徒がキッズプールで水遊びをしています。

ダイビング

12年生の電子 - 廃棄物の点数(もう一度)!

ISSをシンガポール共和国国家環境庁のボランティア・パートナーシップに連携させた 2018年の環境システム及び社会(2018 Environmental Systems and Societies (ESS)) の生徒たちの成功を土台に、2019年ESS の生徒たちが電子廃棄物認識週間 (E-Waste Awareness Week)が始まりました。これは、ISSの生徒と教師と教職員に電子廃棄物の不適切な処理が環境に及ぼす影響と、電子廃棄物を責任を負って処理する方法を充分に認識させるところに目的がありました。

どんな種類の電子廃棄物が処理できるのかを学校のコミュニティに教育するために、電子廃棄物の不適切な処理によって起こる問題を示す電子廃棄物の展示やポスター、ちらしを作りました。 電子廃棄物をどのように責任をもって処理し、環境を思いやることができるのか情報を配布し、ISSコミュニティの意識を高めました ISSの同級生たちが電子廃棄物について理解できるように「カフット (Kahoot)」(カフットに関する客観式クイズ!ゲーム基盤学習プラットフォーム)も作りました。

ESS の生徒のサム(Sam)は、小学部と中学部の生徒たちにこのようなメッセージと電子廃棄物の責任ある処理の必要性を理解させるために、パターソンキャンパスに行ってプレゼンテーションをしたりしました。サムは生徒と対談した後、「 ISSの低学年の生徒たちにメッセージを伝えることができたと思いましたし、彼らが今後電子廃棄物をリサイクルするようになることを願います。」と語りました。

ESS の生徒のルシンダ(Lucinda)は、 カンポン(Kampong)(ホームルーム)で1ヶ月間競争の「電子廃棄物競争」を組織しました。この競争の目的は、どれほど多くの電子廃棄物が適切に処理されたのかを判断するために、どのカンポンが比較的多くの電子廃棄物を収集するのか見るためでした。18個のカンポンが各々学校の段ボールを電子廃棄物を入れた容器でリサイクルするために、ルシンダがカンポンに行った場所で見られるように、彼女は知恵があり環境的に高い認識を持っていました。ルシンダによると、彼女はおそらく年内に同様の競争を企画して、中学校と小学校でも実施すると期待します!。 (また、競争の勝者にお祝い申し上げます。: フセインのカンポン(Mr. Hussain's Kampong)!)

12年のESS の生徒たちも限界を定めずに電子廃棄物の認識週間(E-Waste Awareness Week)が終わっても、このような活動を続けられるように決意しました。電子廃棄物とはいったい何なのか、電子廃棄物用ゴミ箱をシンガポールに設置することがいかに簡単なことなのか、ビデオを製作しました。このビデオは、電子廃棄物に対して認識を深めるために、今後も続けて配信していく予定です。このプロジェクトは、ISS コミュニティだけでなく、より幅広くグローバルコミュニティの認識を高める上で大きな役割をしました。もっと詳しく知りたい場合は、ココからビデオをご覧ください。

「このようなリサイクルゴミのゴミ箱の設置場所を友人や家族、隣人と共有し、ゴミ箱が電子廃棄物でいっぱいになり適切に再利用されるように貢献することができます。」– ISS 12学年 ESS 生徒一同

12学年ESS生徒と指導教師のホワイトヘッド(Mr. Whitehead)が抱くグローバル市民マインドは原則に立脚して配慮する心を見せてくれました。彼らの努力に感謝します。

電子廃棄物の責任ある処理に対するメッセージを小学校と中学校にお伝えします。

電子廃棄物の展示!

ルシンダが電子廃棄物競争の結果を記録しています。

カフットに参加!

障壁のない週間に対する生徒たちの感想文

高校部の生徒たちは障壁のない週間の旅行地であるホイ・アン(Hoi An)、セディリ・ベサル(Sedili Besar)、そしてティオマン(Tioman)島に行きました。ホイ・アン旅行のために、村に植える苗木と、住民のために雨具を購入する基金を集めました。セディリ・ベサルでは、現地の学校でボランティア活動を行い、ロヒンギャ(Rohingya)難民の困難な状況について学びました。ティオマン島では、海辺を掃除しました。生徒たちが旅行について話す内容を聞いてみましょう。:

ホイ・アン(Hoi An)

学校の壁を塗っています。

「人は誰でも、適切な衛生施設を必要とします。」

ナナコ(Nanako)

「ホイ・アンで行ったボランティアを通じて、自分の視点が変わりました。世界の未来について考えるようになりました。村で木を植え、子どもたちに雨具を与え、トイレを設置しました。 植樹活動を通じて、これがいかに辛いことで、木が非常にゆっくり成長するため、これをどうやって保護していくのか学びました。また、子どもたちに自分の雨具もあげました。 彼らは笑顔を浮かべて雨具を着て幸せそうでした。それを見る私もとても嬉しかったです。 彼らを幸せにすることができるように、もっと色々してあげたいです。しかし、一番驚いたのは、トイレが不足していることでした!家にきれいなトイレがあるのは当たり前のことだと思っていましたが、ここの住民たちの家ではそうではありません。それで、彼らのためにトイレを設置できたことがとても嬉しかったです。」

トイレを建てる!

パナシェ(Panashe)

「今回の旅行の中で出会った一番大きな挑戦の1つが、学校の壁を塗ることでした。学校の壁はとても湿気があり、クモが沢山いた上、塗るために表面を滑らかにするために壁をはがしたとき、ホコリが目に入りました。でも、直接ペイントするのが楽しいことが分かりました。 旅行中に私が直面した様々な出来事を上手に対応できたと思いますし、周囲の環境にも関わらず、これらの仕事を最後までやり遂げることができたのを見ても、思っていたよりも自分の決意は強かったんだと感じました。」

村人のための植樹

ジウ (Jeewoo)

「ホイ・アンでヤシの木を植え、トイレと自転車を作りました。私たちがしたことと関連する持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals (SDGs))は、SDG no. 4: 良質の教育(Quality Education)、no. 6: きれいな水と衛生(Clean Water and Sanitation)、そしてno. 15: 陸上生活(Life on Land)です。No. 15 陸上生活の側面からは、ヤシの木が人々のための食糧と酸素を作るだけでなく、荒廃化を防ぐために村の家ごとにヤシの木を10本植えました。 No. 6においては、すべての人が適切な衛生施設が必要なため、彼らのためにトイレを設置しました。また、村の学生たちが今後は楽に登校できるように、学生のために自転車を作りました。 ホイ・アンの環境と住民に肯定的な影響を与えることができたと思います。」

セディリ・ベサル(Sedili Besar)

セディリに到着しました。

コトナ(Kotona)

「今回の旅行で経験した一番意味深かったことは、ロヒンギャ難民学校を訪問したことです。 未来の世界について考えるようになったし、UN　持続可能な開発目標((SDGs)の必要性をより理解できるようになりました。特に、no. 1: 貧困追放(No Poverty), no. 4: 良質の教育、そして、no. 10: 不便さの減少(Reduced Inequalities)です。ロヒンギャ難民学校で出会った子どもたちは、生きるために避難してきましたが、いまだに難民キャンプでの困難と差別に直面していました。障壁のない週間を通じて、このような子どもたちと接触する機会がありました。　私たちは、異なる背景をもって異なる言語を使いますが、互いに理解することができます。これを通じて、難民への対し方を変える必要があると感じました。セディリ旅行を終えて私の目と心が開かれ、より良い、より配慮する疎通者になりました。

ロヒンギャ難民学校で

イワン(Ewan)

「セディリ・ベサルロの障壁のない週間旅行は、選択と行動における倫理性を認識して考えろと教えてくれました。選択と行動の倫理性、そして成否について私に考えるようにさせたのは、ロヒンギャ難民キャンプを訪問して彼らの事情を知ったことでした。公正という名目のもとに隠された、貧欲によってもたらされた暴力について聞いたとき、とても失望しました。

ティオマン(Tioman)

皆が海辺の掃除の準備をしています。

テギュン(Taegyun)

「旅行の4日目にサランビーチ(Salang　Beach)のゴミを片付ける機会があったので、私にとって一番大切な日でした。すべての海辺を掃除するためにグループを5つに分け、色んな種類のゴミを沢山発見しました。一番驚いたのは、発見したタバコの吸い殻の量でした。私のグループは、80個を超える吸い殻を拾いましたが、グループの中で一番少ない量でした。私たち全員で1,000個以上の吸い殻を拾いました。海にこんなに多い吸い殻が捨てられているとは思いもよりませんでした。

プラスチックの瓶とストロー、そして私たちが毎日使用するものも発見しました。拾ったゴミの量を見てから、自分の生活習慣を変えなければならないと思いました。少なくても1日に1回は学校の売店で水を買います　–　1つの学年に　200個以上のプラスチック瓶です。環境保護のために習慣を替えて、周囲の人たちも同じように改善するように勧める必要性を感じました。」

海辺で海洋汚染を防ぐためにサンゴ礁の群落を作っています。

シェジン(Schezin)

「最終日にすぐに効果が現れる教育的な方法で、村のコミュニティを助けることができました、私たちの課題は、サランビーチで出来るだけ多くのゴミを片付けることでした。海辺にあふれたゴミの量とその種類に驚愕しました。ゴミを正しく処理するのに　おろそかにした私たちの行動の結果が恐ろしい結果を招くことを悟りました。空き缶からタバコの吸い殻、ビニール袋、金属パイプ、ガラス、そして台所洗剤の入れ物に至るまで、拾っても拾ってもきりがなかったです。　このような物質は結局海に入ってすさまじい被害を与えるとは考えたことがありませんでした。家に帰ったらすぐに生活習慣を変えて、自分ができる小さな努力(リサイクルショッピングバッグを使用することに過ぎないとしても)でも実践するとはっきり言うことができます。生活習慣の変化による効果を知らなかったら、このような重要性を実感できなかったと思います。そのような意味で、今回の旅行を本当に感謝しています。人類の行為によって海の生態系に及ぼす影響をより深く学ぶことが、今回の旅行を締めくくる良い方法だったと思います。」

ISSの卒業生

卒業生を全世界に輩出しており、ISS国際学校共同体で重要な役割をしています。今後のネットワークイベント、専門家の講演、年次同窓会や対話の場のような校内行事に卒業生を特別に招待する予定です。

マキ・シオダ (Maki Shioda)

私は、2008年にISSを卒業したマキ・シオダ・マキといいます。

ISSでは最も大切な人生の教訓を学び、生涯共に歩める素晴らしい友だちに出会えたとはっきりといいきれます。

奮闘と献身の価値について学んだのもISSだったといえます。入学した当時は、英語で話すことができず、英語での行われる授業についていくのが大変でしたが、学校のサポートと努力を重ねる中で、ついに IB ディプロマプログラムを無事終えることができました。

奮闘と献身が人間の可能性にどんな影響を与えるのか分かりましたし、職場で困難に直面したときに克服しやすいことを感じました。ブラジルで働きたいと思っていたので、そのために一生懸命働きましたし、2年後にブラジルで2年間働くことができることになりました。

ISSでは、世界各国から来た多様なコミュニティの人たちと疎通する中で、コミュニケーション能力が上がりました。私が勤務する会社は60カ国以上に支社があり、自分が異なる文化を持つ人たちと仕事をしても気持ちが楽なことに気づきました。また、ISSの生徒のほとんどが他の国から来た人たちですが、卒業後も連絡を取り合って一生共にできる友だちを私に与えてくれた恩人のような場所です。

ISSで一番楽しかった思い出は、アクティビティ（活動）週間(Activity Week)に「リンザニ生態トレッキング (Rinjani Eco Trekking)」に参加したことです。リンザニ山(Rinjani Mountain)に登って、プラスチックごみを拾ってリサイクル場に運びました。目標を達成するためにチームワークが重要だということを学ぶことができましたし、世界的に汚染問題がどれほど深刻なのか実感することができました。「百聞は一見に如かず(Seeing is believing)」ですね。ISSの生徒として学校の外で冒険し、世界で起こる様々な事件を目の当たりにしながら、能動的なグローバル市民として貢献できる機会を持てたことに感謝しています。

マキ（中央）がISSを訪問してパット (Ms. Pat) （左）とサリー(Ms. Sally) （右）と一緒にポーズをとっている。

行動するグローバル市民マインド!

卒業生が生涯学習の旅で何を達成し、ISSでの生活が現在どのような影響を及ぼしているのかを聞きたいと思います。フェイスブックに登録して、卒業生の最新のニュースやイベントをご覧ください。

www.facebook.com/groups/isssgalumni/

「なぜ私が?なぜハーバードに?なぜ今年の夏なのか?」

12年のガビー(Gabby)とジュン(June)は、アメリカのアイビーリーグ大学(Ivy League Universities) の1つであるハーバード大学(Harvard University)で「勉強してみる」チャンスが与えられました。このチャンスは、シンガポールリーダーシップと経営研究所と連携して全費用支援を受けてハーバード大学の7週間セッションにISSの生徒が参加できるように考慮してくださった高校部のデザイン教師パトリシア・ブラッド(Ms. Patricia Vlad)に感謝します。

生徒たちは、「なぜ私が?なぜハーバードに?なぜ今年の夏なのか?」などの質問に答えるための基本的なテーマを通じて、それに関する1分のビデオを提出するように指示されました。 最終候補者に選ばれた後、数学、読解、作文の能力を測定するため、3時間にわたって試験を受けました。1週間後、嬉しいニュースが届き、ガビーとジュンが選ばれました。二人とも知らせを受けてとても喜びました。このようなチャンスを心から待っていたからです。

ボストンに到着するとすぐに、二人は色んな出来事に直面しました。ジュンは初めてアメリカに来たので少し緊張していました。彼女はボストンに滞在する間ずっと比較的のどかな天気を好み、街に出る度にスケートボードを楽しめる広く便利な環境で楽しみました。ボストンの人たちは体が大きいため、最初は 人に会う度に委縮していましたが、実際に彼らと交流して同僚や教授と親しくなってからは、親切なことが分かりました。ジュンは、彼らと深い対話をするのを楽しんでいました。これらの経験の中で一番楽しかったのは、教授との夕食の席 です。バード教授(Prof. Bird)は常に彼女の近くで指導して、対話を通じて人生を全体的な視点から見つめ、自分が目指すものが何なのか考えるように励ましてくれました。対話を通じて、彼女はもっと一生懸命勉強し、本を読み、自分を発展させることを願い、将来同じ考えをもつ人たちを出会えるという結論に達しました。

一方、ガビーは、ハーバードとボストン地域の広く豊かな文化と歴史に魅了されていきました。彼は、イギリスの影響とイギリスがボストンの文化に与えた影響について学ぶことを好み、優しく外交的な性格をもつ人々に感動したと話しました。ガビーは、「未来志向的」な MITキャンパスを見て、新しい世代が惹かれる魅力を発見しました。彼にとって一番楽しかったのは、ガビーの見解と視野について教授と討論を交わしたことです。彼は、知識論の授業で得た経験が自分の視野を広げ、多様な分野の知識を学ぶことができたし、1つのイデオロギー(ideology)に偏らないようにしてくれたと主張しました。彼は、地球規模の問題を分析する討論を繰り返す中、IBの経営管理で学んだツール(tool)であるPESTLEの分析を応用しました。このような貴重な時を過ごし、彼は建設的な対話の大切さに気付きました。

ガビーとジュンは7週プログラムの一環として計量的な推論の授業に登録しました。彼らは経験を共有しながら、ハーバードならではのユニークで自分を向上させてくれる貴重な教訓を得ました。例えば、プロバビリティーに対して理解するために、小銭を投げてダイステーブル(Dice Table)を参考にするように、より実践的なアプローチを行いました。ジュンは、このアプローチに感動し、生徒の科目と平均的な成績の関係を明らかにするため、数学の内部評価(Mathematics Internal Assessment)を行う際に自分が学んだことを生かすと言いました。

全体的に、ガビーとジュンは一生で一度の経験を本当に楽しんでいました。権威のある教育機関と優れた学者と出会った経験を通じて、大学や上位の教育に対する考え方が変わりました。 ハーバードの学生になることは簡単ではなく、どの分野でも卒業するためには絶えず勉強し、莫大な読書と研究も必要だと実感しました。それにも関わらず、彼らはハーバードの学生も普通の学生と変わらないといいました。つまり、音楽を聴くのが好きで、流行に乗って楽しむといいます。この結果、ガビーとジュンは目標を高く設定して、学業の倫理を変化させるという動機が生まれました。

ハーバードキャンパスに来ることができて、とても興奮しています!

ボストンで充実した時間を過ごしています。

「バード先生、色々とサポートしてくださり、ありがとうございました。」

ボストンからガビーより

WLSA 学生カンファレンス

去る夏の高校部の生徒であるヘレナ(Helena)、アラン(Alan)、ベン(Ben)、ユキ(Yuki)、モエ(Moe)の5人は、主任教師のホワイトヘッド(Mr. Whitehead)と一緒に「人間の条件(The Human Condition)」に焦点を置いたワールド・リーディングスクール協会学生カンファレンス(World Leading Schools Association (WLSA) Student Conference)に参加するために、韓国の済州を旅行する時間を持ちました。このグループのメンバーのほとんどは韓国に行ったことがないため、外国に行けてとても興奮していました。島のあちこち(例えば、挟才海辺、万丈窟、コッチャワル、道 立公園、城山日出峰)に現場探訪に行き、済州道の美しい風景を見ることができました。

カンファランスの中で、生徒たちは世界の異なる文化の背景をもつ人々と交流する機会をもち、今も連絡を取り合う友達に出会うことができました。自分をよりグローバル市民として成長する新しい経験を持って帰って来ました。また、済州で過ごす間、グローバルな問題に対してグループ討論に参加し、ユキによると、「はっきりと、グローバルな問題に対して以前よりも自信をもって討論することができます!」と述べました。他の生徒たちもこれに同意し、カンファレンスの後に自分の声を聞くことに抵抗がなくなったと話していました。

アランにカンファレンスの核心の 1 つが、大学サポートセッションでした。彼は、「大学が学生を選ぶとき、成績と特別な能力ですべてが決まるわけではない。大学は、多様性とソフトスキル(soft skill)なども考慮する。従って、私たちは様々な方法でコミュニティに貢献する必要があり、ソフトスキルと感情指数(emotional quotient)を開発する必要がある。」ということを学んだと語りました。

生徒たちは、自分自身をより理解して、グローバル市民として成長できると感じたといいます。彼らは、自分が学んだ内容をカンファレンスではっきりと提示し、これをISSで実践してメッセージを仲間に伝えています。事実、ヘレナは学生朝会で高校部の生徒全員にカンファレンスの内容と自分が経験した成長について紹介しました。より多くの立派なグローバル市民を育成するために!

済州で自然を満喫しています。

新しい友だちを作っています。

WLSA の学生カンファレンスで過ごした時間を決して忘れません。

動いているグローバル市民マインド

中学校校長ロードウィック(Ms. Loadwick)が 5年生たちと共にしています。

5年の参加者たちが他校の参加者と共にしています。

5年の生徒たちが年例の環境人認識ファンド(Scholastic Environment Fund (SEF)) スピーチ大会に参加して、電子製品及び生ごみの適切な管理のような地球全体の重要な問題について発表しました。生徒たちはグループ単位でテーマを探求し、適した正確な資料を発見・評価する上で自分の研究能力を共に発揮しました。そして、聴衆と審査委員、他の競争学校の前で自分たちの研究結果を発表しなければなりませんでした。5年生の生徒たちはとても上手にしていました。地球全体に関わる重要な問題に対して認識を高めることに成功し、同時により良いグローバル市民として成長する課程で発展を見せました。

SEFはISSインターナショナルスクールの設立者であるチャン・チー・セン夫妻 (Mr. and Mrs. Chan Chee Seng) が2001年にシンガポール開校20周年を記念するために始めました。SEFの目標は、一般の学校とインターナショナルスクールの生徒たちが一つになり、シンガポールと関連する環境問題を調査する機会を与え、生徒の研究能力と発表力を高めることです。 SEFは、地球の未来は純粋な生徒たちにかかっており、彼らが環境を大切に保存する方法を提示すると信じます。

アルバレズ (Dr. Alvarez)から認証書を受けています。

緊密に結ばれたコミュニティのチームワークを強く誇示

ISS コミュニティの参加者の皆さんにお祝い申し上げます。

先生方も参加しました!

シンガポール国際トライアスロン(Singapore International Triathlon)などの行事に参加された教師と生徒、保護者の皆様の緊密なコミュニティにお祝い申し上げます。このトライアスロンは、1984年にさか戻るシンガポールの先導的なイベントで、生徒と保護者、教師全員に健康と運動を強調してきたISS教師のディクソン (Mr. Dixon)により昨年末にISSコミュニティに紹介されました。彼は、ランニング、サイクリング、水泳を通じて、誰が最大の能力を発揮する戦いに挑むか知るために、ISSコミュニティにこのような行事を提案しました。登録した選手は、メンバーがトライアスロンで3人1グループで行う競技に参加するか、または3段階に続けてすべての競技に参加するか選択することができました。

写真判定するディクソン

ディクソンは、ISSで緊密なコミュニティを築き、トライアスロンに参加するために必要な組織力と献身の水準を立証しようとしました。これを通じて生徒たちが将来、勉強と仕事に適用できる人生のノウハウを体得するでしょう。 ネオ(Neo)とゼン(Zen)というISSの生徒とISS 父兄モチズキ・ヒデキ(Hideki Mochizuki)で構成したチームは「ミニ (mini)」種目(水泳200 m、自転車12 km、ランニング2 km)で見事1等に輝き、決意を努力を証明しました。競技終了後にヒデキがこのように述べました。:

> 「私たちのチームは、他の大人のチームに勝つために、スピードと忍耐力で頑張りました。競技が終わった後にゼンとネオと話しましたが、競技に備えて準備した過程、勝とうとする確固たる意思、競技の登録手続き、競技の前にナンバーをつまんだことなど、色んなことを学んだ事を感じました。

ISSのライオンたちは真のブルーチャンピオンです。

個人の部の参加者として登録したディクソンは、「スプリント(sprint)」種目(水泳750 m、自転車18 km、ランニング5 km)で2等の成績を収めました!。これと同様に、12年生のルシンダ(Lucinda)も自分の限界を試したいといって、個人的にトライアスロンを完走しました。ルシンダは、トレーニングの過程でペースの調節と時間配分を学び、勉強とトライアスロンをしっかりと両立していました。その中で、悩み過ぎずに懸命に走ること、全プロセスでエネルギーを保存することが重要だということを学びました。競技当日は緊張しましたが確信しました。 ゴールにたどり着いたとき、彼女に大きな喜びが湧きあがりました。彼女は、「本当に素敵な経験をしました。正直、笑顔が止まりません。」と語りました。

勝利したチームを誇らしく思います。

ISSのチーム全員、本当に良く頑張りました!来年もまた競技で会えることを願います。

2018日本大学情報博覧会

「では、日本で勉強したいですか?」

昨年の成功に続き、日本大学情報博覧会をもう一度開催しました!。 ISSの信念は、すべての人が関心や未来の計画に合った教育を受ける権利があるというものです。異なる必要性と関心をもつ様々な学生に差別化した教育でアプローチするために努力する包容的な哲学が ISSの教育環境のベースとなっています。この博覧会では、生徒と保護者がさまざまなオプションを探索して選択することができるように機会を提供しています。

「日本はアジアに位置し、家から近いので、大学を選ぶときに優先的に選ぶことができます。この博覧会を通じて、興味がある日本の大学について詳しく知ることができました!。」

- 日本大学情報博覧会に参加した生徒

日本の教育・文化・スポーツ・科学・技術、高等教育部(Ministry of Education, Culture, Sports, Science & Technology (MEXT), Higher Education Department of Japan)と日本グローバル教育財団(Global Education Foundation, Japan (GEF))の共助のもと、日本から多くの大学が参加しました。:早稲田大学 (Waseda University); 岡山大学(Okayama University); 名古屋工科大学(Nagoya Institute of Technology); 国際クリスチャン大学(International Christian University); 国際人文大学(International College of Liberal Arts), 山梨学院大学(Yamanashi Gakuin University); JFオーバリン大学(J. F. Oberlin University); 立命館アジアパシフィック大学(Ritsumeikan Asia Pacific University); そして立命館大学(Ritsumeikan University).

参加した日本の大学の関係者の方々に感謝します。博覧会に参加した生徒たちは、とても有意義だったそうです。ある生徒はこう述べました。:

「いつも日本の文化と日本の学業に興味がありました。そのため、今回の博覧会では日本の大学に進学するために必要な情報を得ることができました。」

また、博覧会ではMEXT代表のタケダジュン(Ms. Jun Takeda)氏とGEFのツボヤイクコ(Ms. Tsuboya Ikuko)氏による発言がありました。英語と日本語で行われ、日本で学ぶ理由、日本の大学への入学手順、日本の大学のカリキュラムなどについて語ってくれました。シンガポールの日本領事館の代表ミゾタ・ガク(Mr. Gaku Mizota)氏も博覧会に参加しました!

日本大学情報博覧会が開催されてとても嬉しかったです。支援してくださった皆さんに感謝するとともに、来年も博覧会を開催されることを期待しています。

日本大学情報博覧会に入場する生徒たち

多くの大学が相談する機会をもちました。

日本の大学のオプションについてもっと詳しく調べます。

今後のイベント
11月 – 12月

G10 DP情報の夜(11月22日)

父兄がIB　DPカリキュラムとISSで教える科目に関して、より詳しく知ることができる対談の場を準備しました。参加くださり、子どもたちがDPで学ぶ内容について見ていってください。

生徒たちにDPを準備させることは、父兄に準備させることでもあります。

インターナショナルデー(12月7日)

インターナショナルデーはISSがもっている包容的で多国的なコミュニティを祝う日です。すべての人のために沢山準備しました。:　公演、ワークショップ、世界の多様な料理。保護者父兄の皆さんが祝賀イベントに参加すればもっと歓迎されますので、皆さんの伝統的な衣装とカラーに身を包んでお越し下さい。ISSインターナショナルデーで皆さんが美しい衣装をご披露してくださることを期待しています。

インターナショナルデーで公演を見ています。

G10個人プロジェクトの展示(12月 11日)

10学年の生徒たちが自分たちの個人プロジェクトを企画して研究する、興味深く意味のある時間を過ごしました。 生徒たちは個人的な関心事と関連したプロジェクトを推進することができましたが、地球次元の視覚でもあります。今回10学年の個人プロジェクト展示で、生徒たちが行ったものをすべて見せてくれるでしょう。

10学年による個人プロジェクトの展示を期待します!

光フェスティバル(12月12日)

フェスティバルでは、生徒たちの美しいミュージック公演の夜を期待します。このコンサートを企画したクリストファー・ホディノット　(Mr.　Christopher Hoddinott)と、このような年例ミュージックフェスティバルを準備するために努力した生徒たちに感謝します。

光フェスティバル

中学部の行動するボランティアの日1日目(12月13日)

中学部が各学期末に行動するボランティアの日に参加します。行動するボランティアの日をもつことは、環境に否定的な影響の代わりに肯定的な影響を与えようとする本校の希望の一環です。

昨年、行動するボランティアの日1日目に中学部の生徒たちが海岸をきれいにしています。今年は何をするのだろうか?

8月から11月に行われた学校活動の詳細については、ここをクリックしてください。